



ANNUAL REPORT

非営利型株式会社Polaris 年次報告書

2018.8.1 - 2019.7.31

【第8期】

年次報告書 発行にあたって

POLARIS ANNUAL REPORT

Polarisは2019年8月20日をもって、創業8周年を迎えました。今年度は、これまでの事業部編成を刷新し、新たに2名の役員が就任しました。また組織運営に関わるメンバーや、世田谷・調布エリアのみならず、全国各地で共に事業を進めていく仲間も増え、大きな変化を遂げた一年でもありました。組織がまた一つ成長した今、年次報告書（Polaris Annual Report）という形で、Polarisがこの一年、何を行い、どのような成果を挙げ、今後どうしていきたいかをみなさんにお届けします。記念すべき第1号では、Polaris第8期（2018.8.1-2019.7.31）の事業実績をお伝えします。

• 発行にあたって	1
• Polarisについて- ミッション -	2
• Polarisについて- 事業部 -	3
• Loco-workingについて	4
• 年表- 2018.8-2019.7 -	5
• トピック- ソーシャルデザイン事業部	6
• トピック- ロコワークデザイン事業部 -	10
• トピック- スペース事業 -	17
• トピック- コーポレートデザイン事業部 -	18
• トピック- 自由七科 -	22
• ファイナンシャルレポート	23
• インタビュー	25
• 未来に向けて	28
• 沿革	29

POLARISについて

- ミッション -

Polarisでは、Mission（使命）、Vision（展望）、Value（提供している価値）として、以下の3つを掲げています。

• Mission

社会の文脈を変え「未来におけるあたりまえのはたらきかたをつくる」

私たちを取り巻く環境が大きく変化し、価値観が多様化していく中で、既存のはたらき方を前提とすれば、「育児と家事の両立の大変さ」ばかりが目立ってしまい、育児中の女性が活躍できる場が少なくなってしまう。身近な地域の中で、ライフステージに合わせたはたらき方を柔軟に選択することができれば、子どもを育てながらはたらくことが特別ではなく、誰にとってもあたりまえのものになっていくのではないのでしょうか。また制約の多い子育て中の人たちにとって、暮らしやすくはたらきやすい環境は、誰にでも暮らしやすく、はたらきやすい環境へと繋がっていきます。

• Vision

「心地よく暮らし、心地よくはたらく」ことが選択できる社会へ

Polarisは、既存の働き方の仕組みに合わせてはたらくのではなく、一人一人がライフステージに合わせ、「心地よく暮らし、心地よくはたらく」ための仕組みづくりに取り組みます。正しいか間違っているかではなく、心地よいか悪いかといった感覚を軸にすることは、既存の仕組みや固定概念から自由になり、自分が本当に望む選択は何か考えるきっかけとなります。置かれた環境や能力によって選択肢が決まってしまうのではなく、それぞれが望む、多様で柔軟なはたらきかたや暮らし方を実現するためのプラットフォームとして存在することを目指します。

• Value

社会の公器としてあること～社会価値と事業価値の両立

Polarisは、「一般」や「他者との比較」ではなく、人それぞれが持つ「あたりまえ＝普通」の感覚を価値の源泉とした事業づくりを行っています。それぞれの「あたりまえの感覚＝普通の価値」を、ビジネスを通して社会に提示することで、新たな創発を生み出すこと、新たな創発がうまれる環境を設定することがPolarisの提供価値です。多様なステークホルダーとの協働を前提にしながら、社会に新しい事業のありかたや持続可能な人と組織の関係づくりを提案していきます。

Column 「社会の文脈を変える」

2019年1月より、創業以来掲げているミッションに「社会の文脈を変え」という言葉を追加しました。「文脈」とは、物語の筋道であり、前後の関係を示すものであり、物事の背景のこと。私たちは普段、意識的であれ無意識的であれ、沢山の「こうあるべき」という「社会が望ましいと暗黙的に示す文脈」に基づいて行動していることも多いのではないのでしょうか。既存の社会の枠組みから自由になり、新しい発想のもとに「未来のあたりまえ」をうみだすためには、新しい文脈が必要——。そう考えて、この言葉を追記しました。

POLARISについて

- 事業部 -

Polarisでは2019年1月に新たに2名（ロコワークデザイン事業部統括 野村香奈、コーポレートデザイン事業部統括 山本弥和）が役員に就任し、5名体制となりました。新体制の元、より多様で柔軟な組織運営をするために事業部再編を行いました。

・ ソーシャルデザイン事業部

未来のあたりまえをつくる

社会変化に適応し、新しいはたらき方や新しい事業を創出するために、社会課題の整理、潜在ニーズの掘り起こし、新規事業開発、コンサルティング、人材育成、調査・研究などを行っています。

・ ロコワークデザイン事業部

地域×企業で今を最適化し新たな可能性を生み出す

ひとりひとりのニーズに合わせて働く時間や場所を柔軟にし、チームで業務を遂行するワークシェアや、地域と企業が連携し、生活の視点や暮らしの視点から事業価値を創造することに取り組んでいます。

・ コーポレートデザイン事業部

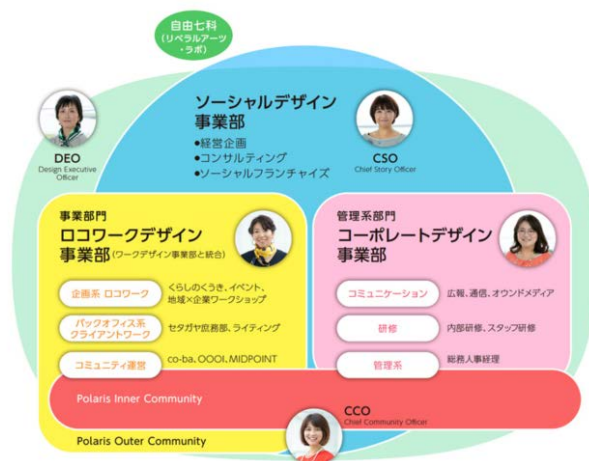
Polarisらしさを形づくり発信する

多様で柔軟なはたらき方を推進し、「未来のあたりまえ」を実現するために必要な組織づくりのための研修企画や内部基盤整備、社内外へのプロモーション、情報発信を行っています。

・ 自由七科（リベラルアーツ・ラボ）

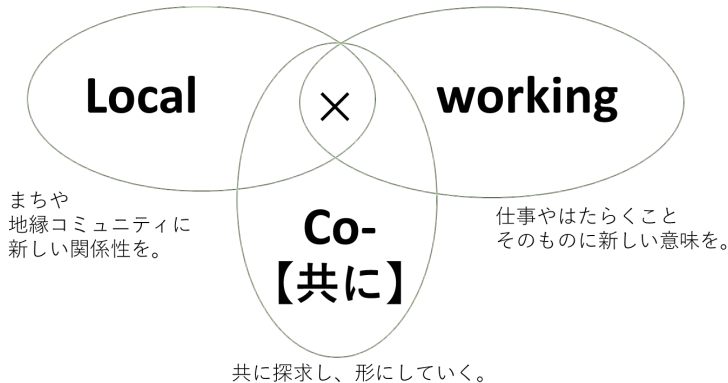
自由に生きるための知恵に出会う

変化の時代の中で多様な人とつながりながら自由に生きること、その人がその人らしくあること、仕事とその人がより近づき、自分が心地よいと思える暮らしかたや働き方を実現するための学びや探究を行うラボです。



LOCO-WORKINGについて

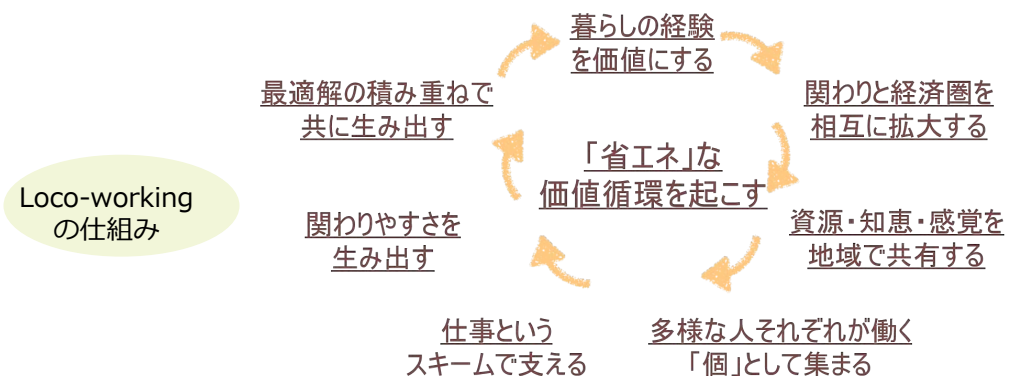
Loco-workingとは、「暮らす」と「働く」が、
愛着のある場所につながるはたらきかたのこと。



「愛着と誇り」を持って、自分の生活からの視点や、そのまちにある資源を活用して創り出す仕事。そのまちに住んでいるからこそできる仕事、自分の暮らしからの経験そのものが価値になる仕事。人を活かし、まちの資源を活かし、まちに新しいつながりを生み出したり、まちを活性化する仕事。私たちは、それらを「Loco-work」と呼んでいます。

Loco-workingを推進するためには、色々な人たちとのつながりや再発見が必要です。「仕事」というスキームがあるからこそ、今まで出会わなかった人と接点生まれ、仕事を通してつながることでお互いを理解したり、新しい視点を獲得することで見過ごされてきた価値に目を向けることができたり、仕事や働くことそのものに新しい意味が生み出されたりします。

Loco-workingは、省エネな価値循環を起こす「仕組み」となっています。



年表

- 2018.8-2019.7 -

事業運営

組織運営

2018

Aug.

- ・7周年記念イベント「描いた未来をどう創ろう？」開催
昼の部「変化の時代における安心のかたち」
～個人と組織の関係性～
夜の部「ビジネスにおける、対等ってなんですか？」
～多様性の時代における愛と憎しみ～
- ・7周年記念冊子発行
「非営利型株式会社Polaris 7年のあゆみとこれから価値創造の
プロセスと組織開発>」

- ・夏合宿@国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・Polarisディレクター研修実施

Sep.

- ・「Loco-café OOOI」（東京都品川区/事業主東京建物）運営開始

Oct.

- ・PHP総研シンポジウム「企業は社会の公器—これからの社会をつくる企業経営とは」登壇

Nov.

- ・「はたらき方マルシェ@Vol.6 ～お金を循環させて稼ぐ調布をつくろう」開催（調布市後援）
- ・「MIDPOINT目黒不動前」（東京都品川区/事業主コスモスイニシア）ラウンジ運営開始
- ・一般財団法人KILTAとの協業開始、KILTA周年イベント「ひびのて」共同開催
- ・Tokyo Work Design Week 2018「面倒な問題から逃げるのはもうやめよう」開催
- ・西武信用金庫ビジネスフェア出展

Dec.

- ・年末振り返り

2019

Jan.

- ・ウエダ本社株式会社（京都府）との協定締結、utena works株式会社と3社での協業開始

- ・Polaris経営体制変更 経営陣が5名へ
- ・Polaris組織変革「自由七科」（リベラルアーツ・ラボ）設置

Feb.

- ・「おうちから起業」オープンセミナー開催、連続講座スタート

Mar.

- ・地域密着型商業施設「クロスガーデン調布」（東京都調布市）でのワークショップ企画運営開始

- ・Polarisウェブサイトリニューアルオープン

Apr.

- ・「藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト」スタート（秋田県・藤里版ローカルベンチャー推進協議会と協働）

- ・役員春合宿
- ・AIワークショップ実施

May

Jun.

- ・「はたらき方マルシェVol.7 ～そろそろその旗あげてみない？」開催（調布市後援）

Jul.

- ・NPO法人二枚目の名刺 サポートプロジェクトスタート

トピック

- ソーシャルデザイン事業部 -

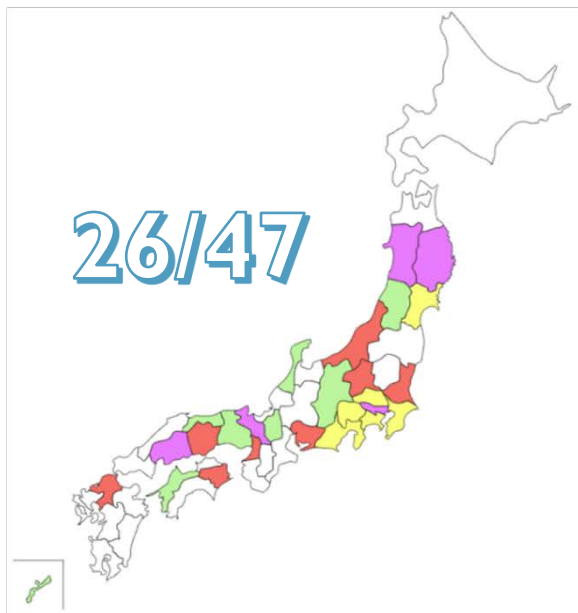
2018年度は、ソーシャルデザイン事業部として様々な連携・協定に取り組んだ1年であり、色々なまちにお邪魔した1年でした。未来に向けた種まきに注力した年だといえます。

京都のウエダ本社さんおよび子会社であるutena worksさんとは、女性の多様なはたらき方の支援、組織づくりに関するパートナーシップ協定を締結しキックオフイベントを京都で共同開催させていただきました。utena worksさんへの研修にはPolarisの関西チームも合流し、今後の事業展開に向けての顔合わせも実施できました。秋田県藤里町では、「地域密着型ワークシェア」の仕組みづくりにおける協働が始まり、広島県廿日市ではFirsteさんが廿日市商工会青年部さんに伴走いただきながら取り組んでいる地域の育児中の女性たちと地域中小企業へのワークシェア推進に関するアドバイザーに就任。そのほか、岩手県陸前高田市のSAVE TAKATAさんからも、これから展開していかれる予定の地域的女性向け事業アドバイザーのご相談、徳島のテレワーク推進に取り組むNPO法人チルドリン徳島さん&阿南のNPO法人エランヴィタルさんとはスタッフ研修や地域的女性向けセミナーを開催。福岡県糸島市のママトコワーキングさんにもお邪魔しました。他、非公式ではありますが、伊豆諸島の新島では、村議さんと離島における女性たちの働き方や地域の仕事、教育についての意見交換も行うなど、本当に充実した1年です。

その土地ごとの生活や時間の流れ方がある一方で、どこの地域でも、もっと働き方や暮らし方の選択を増やしたい、これから住民や子どもたちに手渡せる未来の選択肢を増やしたい、という想いは共通でした。2019年は、それぞれの想いが合流し、経験と課題を持ち寄れる場づくりや、具体的な広域連携などに取り組んでいきたいと思います。

まだまだ
行ってみたい
とこ沢山！

Loco-workingの旗立て地図 【2019年12月1日時点】



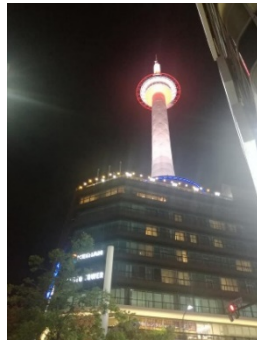
つながりのタイプ	実績
事業連携、協働パートナー、アドバイザーなど深い結びつき	岩手県 秋田県 東京都 京都府 広島県
複数回の講演や研修、事業実績など継続的な関わり	茨城県 群馬県 新潟県 愛知県 大阪府 岡山県 徳島県 福岡県
単発のセミナーや講演実績、事業化やパートナーシップの検討	宮城県 埼玉県 千葉県 神奈川県 山梨県 静岡県
地域との何らかのつながり、接点あり	山形県 石川県 長野県 滋賀県 兵庫県 鳥取県 愛媛県 沖縄県
まだまだこれから（未踏の地）	北海道 青森県 福島県 栃木県 富山県 福井県 岐阜県 三重県 奈良県 和歌山県 島根県 山口県 香川県 高知県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県

「経県値マップ」をもとにPolarisで作成
(この地図はクリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています)

- SEMINAR EVENT -

2018年度は合計12回、セミナーや講演会、研修で呼んでいただきました。秋田県藤里町では、Polarisでも初となる年間を通しての仕組みづくりや伴走に取り組み、沢山の時間を一緒に過ごさせていただいています。

	2018年度	開催地	講演名	主催	カテゴリ
1	10月23日	東京	企業は社会の公器 シンポジウム—これからの社会をつくる企業経営とは—	政策シンクタンクPHP総研	組織開発
2	11月25日	東京	働く人のためのライフデザインカウンセリングと「ワーキング心理学」	日本産業カウンセリング学会	組織開発
3	1月29日	京都	utena works お披露目イベント登壇 地域企業×地域女性のワークシェアによるLoco-working推進」	utena works	働き方
4	2月6日	東京	不動産開発会社社内勉強会での事例紹介		働き方、ソーシャルビジネス、共創
5	2月24日	東京	世田谷の中小企業支援を語るシンポジウム登壇 床来におけるあたりまえのはたらき方をつくる」	世田谷区産業連携交流推進課	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス
6	3月16日	東京	コミュニティフォーラム2019 登壇	NP0 法人CR ファクトリー	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス
7	3月17日	秋田	藤里でくらし こどもを育て はたらくを考える三時間」	藤里版ローカルベンチャー協議会	女性のキャリアデザイン、働き方
8	3月26日	徳島	平成30年ETウーマン養成事業「半分幸せの考察—育児離職した女性のライフストーリー分析による選択における個人と社会の関係性」	NP0 法人チルドリン徳島 テレワークセンター徳島	女性のキャリアデザイン、働き方
9	3月26日	徳島	子どものいる暮らしの中ではたらくということを考える座談会	NP0 法人エランヴィタル あなんテレワーク推進センター	女性のキャリアデザイン、働き方
10	6月22日	東京	コモンルーム登壇	NP0 法人二枚目の名刺	働き方、組織開発
11	7月9日	神奈川	まちに新しいつながりを生み出しまちを活性化す	平塚宮松町自治会	働き方、コミュニティ
12	7月11日	千葉	TENT幕張 Meetup スペシャルゲスト	TENT幕張	働き方、コミュニティ



- VOICE -

【内部スタッフ研修、女性向け啓発セミナー】徳島県徳島市、徳島県阿南市 テレワークセンター徳島（NPO法人チルドリン徳島）2019年3月26日

【女性向け】「半分幸せ」の考察

—育児離職した女性のライフストーリー分析による選択における個人と社会の関係性

【スタッフ向け】ワークショップ手法

あなんテレワーク推進センター（NPO法人エランヴィタル）2019年3月26日

【女性向け】「子どものいる暮らしの中で働くということを考える座談会&半分幸せの考察」

Q どんなことを伝えたいと思って企画されましたか？やってみていかがでしたか？



私たちの団体がもつテーマの一つに、子育て世代+“働く”があり、その点でPolarisさんは当法人設立時より私たちの大きな道標です。3月末のお忙しい時期に徳島にお越しいただくことができました。私自身はその半年前にPolarisの取り組みを拝見したり、市川さんの修士論文発表会「半分幸せ」の考察を聞く機会がありました。当時、団体のコミュニティの捉え方や私自身の活動そのものを再考する局面だったのですが、またもや一つの大きな指標を示していただきました。そのこともあり、ぜひ一度徳島に来ていただいて直接みんなにPolarisマインド（!）を伝えてほしいと思っていたところで、3月にその機会が。悩んでいる方やモヤモヤを抱えている方がいるならば、自分自身で答えや出口を探してほしい。そのきっかけとなるようなセミナーとなりました。これからもPolarisさんは私にとっては文字通り「Polaris」であり続けるのだらうと思います。



NPO法人チルドリン徳島 理事長 泉 理加さん
普段、在宅ワークを望む女性の方の相談を受けています。育児や介護、障がいや闘病など理由は様々ですが、女性達に共通しているのは、本心を相談できる相手がなかなかいない事と、家族のために自分のやりたいことを我慢している事、また我慢を当たり前と思っている事です。座談会に参加して気持ちを軽くしてもらいたい、「半分幸せの考察」を聞いて自分の夢をもってほしい、との思いから来ていただこうと企画しました。座談会では現状の不満や不安も出ましたが、それを改善するための手段を考える事で前向きな気持ちになりました。どんどん意見が出て時間が足りないくらいでした。「半分幸せの考察」やボラリスさんの活動内容のお話も市川さんの楽しいトークでとても勉強になりました。市川さんと大槻さんにお会いすると、いつもパワーがもらえます！

NPO法人エランヴィタル理事長 伊勢 由花さん

【事業アドバイザー就任】 広島県廿日市市、広島県呉市

Firste 2019年4月~2020年3月

2016年3月、Polarisに視察に訪れ、「自分たちのまちでもこんな事業を立ち上げたい！子育てや介護をしながらでも社会で活躍できる働き方をつくりたい！」ということで立ち上げられた「Firste」（ファステ）。地域で仲間を募りながら活動を続け、2019年呉市から転居した廿日市市で、廿日市商工会議所青年部主催のビジネスプランコンペにエントリーして優秀賞を受賞。伴走支援を受けながら、地域密着型のワークシェアの事業化を目指されています。



Polarisさんの目指す未来における当たり前のたらしき方に共感し地域で取り組みたいと思ったものの、組織運営や経営知識・経験のない中で0から1を立ち上げる難しさに悩み続けてきました。私自身の経験値を高め、理想の組織に対する具体イメージを描けるようになりたいという希望があり、セタガヤ庶務部へ登録させていただいたことが組織イメージの具体化に役立っています。現在は、業務の依頼を受け始めトライアルを実施していますが、ご依頼を受ける仕事の性質がそれぞれに異なるため、業務の特徴に合った切り分け方やコーディネーターに必要な考え方や働き方について学べる機会があると心強いです。

その先には、地域間連携可能な業務で協働したり、地域間で事例紹介をし合うなど、ネットワーク全体で意識し合える環境が整うことを期待しています。

Firste 代表 光井祐子さん



【仕組みづくりにむけた伴走支援】秋田県山本郡藤里町

藤里版ローカルベンチャー推進協議会 2019年1月～3月（調査）2019年4月～（実行）

通称『フジサト庶務部プロジェクト』は、正式には『藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト』といいます。育児中の地域の女性たちが多様で柔軟な働き方を実現するために、Polarisが構築してきた「シゴト軸のコミュニティ」「チームによるワークシェア」などを中心とした仕組みを応用し、安心して暮らし、働き続けるまちづくりの実現を目指してスタートしました。同協議会と協働で、まずは育児期女性の活躍の機会づくりを軸としてスタート。現在は10名の推進チームメンバーと「フジサト庶務部」を立ち上げ、ワークシェアトライアルなどに取り組んでおり、藤里から徐々に秋田県北部エリアの方々とへとつながりを広げていけたらと思います。

<About 藤里町>

- ・ 秋田県最北端に位置し、青森県との県境一帯は標高1千メートルを超える山並みが連なる白神山地(世界自然遺産)。面積の64.8%が国有林。ブナの森に抱かれた緑と水が豊かなまち。
- ・ 人口3,182人(令和元年12月)、高齢者率は 50.1%と県内2位。
- ・ 東京からは意外と近く、羽田空港から大館能代空港まで約1時間、そこから車で30分程度です！



藤里暮らしについてご興味ある方はこちらへ：<http://f-redesign.jp/localventure/>

Q.この協働プロジェクトをスタートした背景について

藤里町では働き先が限られ、「子どもの近くで働きたい」という育児中の女性や「本当は・いつかは帰りたい」という都会に出た若者の思いとはうらはらに、数少ない選択肢から選ぶか町外に出るしかないという状況が続いています。また、起業など自分のやりたいことが実はあっても、“こんな高齢化の町ではもう無理だ”という後ろ向きの空気も強い。この町にいる限り、自分の可能性を諦めたり我慢したりせざるを得ないという空気を変え、子どもたちに地域を受け継いでいくために、全く新しい仕組みや価値観が必要であり、Polarisさんの考えに学びながら変化の渦を女性たちから巻き起こすのがいいのではないかと考えました。

Q.実際スタートしてみているいかがですか？

年間を通じて伴走支援していただく体制をとれたことで、継続的に小さなチャレンジを積み重ねることができ、メンバーたちに様々な変化が起こりつつあります。プロジェクト開始当初、うつむき加減で自信なさげにしていたメンバーたちですが、よく笑いよく話すようになり、目に見えてきれいになった人も（笑）。苦手なPC業務にトライした人、自主イベントを初めて開催した人、モノづくりを始めた人、念願の自宅での起業を実現した人etc...そんな母達の背中を見て、子どもたちや家族の反応も変わりつつあります。

また、顔の見える狭い地域内での実施でありながら、Polarisメンバーと日常的にオンラインでやり取りをし、外の風を感じながら働き暮らしていけるというのも、大きな魅力だと感じます。都会の成功例を押し付けることなく、藤里のペースや考えを押し量りながら共に作り上げられるパートナーは、そう多くはないだろうとご縁に感謝する日々です。

藤里版ローカルベンチャー推進協議会 プログラムオフィサー

地域密着型ワークシェア事業『藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト』推進担当
佐々木絵里子さん



トピック

- ロコワークデザイン事業部 -

・ 概況

2019年1月の事業部再編に伴い、ワークデザイン事業部とロコワーク事業部を統合して、「ロコワークデザイン事業部」となりました。

Polarisがうみだす仕事が、仕事をきっかけにまちにつながったり、新しい関係性や価値観に出会うきっかけになることを願い、創業以来「Loco-working」という新しい言葉で、新しいはたらき方の提案を行ってきました。（時間や場所に制約がある人が、すきま時間やあいま時間に近所や在宅でやるという意味ではなく）

今回の統合は、Polarisが関わる業務すべてが、新しい関係性や価値観に出会う「Loco-working」であるということの再確認でもあります。新事業部として再スタートした8期目は、その点を更に意識し、業務の多様化や、新しい枠組みでの協働プロジェクトを進めてきました。

まず、「セタガヤ庶務部」では、従来の庶務業務に加え、寄り添い、励ます『バディ』という、コミュニケーションを提供する業務や、自治会からの受託業務で、近隣住民のチームによる回覧板配布業務などが始まりました。特に回覧板配布業務では、これによって今まで繋がりのなかった、自治会と地域女性が出会い、お互いに声を掛け合えるような関係性が生まれました。

他にも、コミュニティ形成・運営事業においては、地域に開いたコミュニティカフェ運営、レンタルオフィスの会員向けラウンジ運営を新たに受託。

事業部の再編によって今まで以上に、人と人が出会い、仕事の意味が変わり、業務に対する愛着が生まれ、それが次の信頼関係に変わるという「Loco-workの価値」が、事例を通して実感できた1年でした。



- PICK UP PROJECT-

セタガヤ庶務部

「プログラミングスクールのオンラインバディ業務」

プログラミングスクールの受講生が提出したレポートに対して、チャットツールでコメントを返信する業務です。レポートにある、受講生の学習した時間やカリキュラムの進捗状況や感想を確認し、受講生の学習意欲が高まるように、励ましや寄り添いのコメントを返信します。

担当口コワーカーの声

受講生によって受講の動機や年齢、職業も様々で、学習のスピードや進め方、つまりポイントなどもそれぞれ異なります。また、デイリーレポート内の「一言」欄に書かれている感想や疑問などの短い文章の中からも、受講生の方それぞれの個性が感じられます。

そういった受講生の方々の個性に合わせて、返信コメントを考えるのがとても楽しいです。

そして、そのように心をこめて送ったコメントで、受講生の方のモチベーションが上がった様子が伝わってくると、とても嬉しいです。

また、返信コメントの内容について悩んでしまった時は、他のメンバーだったらどのように返信するかチャットツールを活用して相談したり、時にはプログラミングスクールの社員の方にも相談したりします。受講生の方が意欲的に学習に取り組めるように、また、この業務がより良いものになるように、いろいろな方々と協力しながら進めていける点も、とても楽しいです。



バス待ち時のネットサーフィンに見えますが、オンラインバディ業務中。移動中やスキマの時間など、うまく自分の時間をマネジメントして、受講生への対応をしています。



受講生のみなさんの頑張りに貢献できるよう、メンバー同士の情報共有ツールで、声掛けのコツなど、経験値を共有しています。

株式会社インフラトップ 森川様

――業務を依頼した理由をお聞かせください。

元々Polarisに在籍されていた方から紹介いただきました。依頼する業務は短い時間で、毎日発生し、また、業務の中身が誰でもできるような内容ではなかったため、依頼先を見つけることが出来ていませんでした。そんな折、ご紹介いただきとてもありがたかったです。

我々のサービスはプログラミングを初めて学習される方を対象にしたスクールですので、受講生に寄り添い、学習に挫折せず、意欲的に取り組める環境を目指しています。

学習サービスの一貫に、受講生の学習を励まし、サポートする役割として、「デイリーレポート」があります。受講生が毎日の学習を進めていく中で、その声を聞き、励まし応援していることを伝えることで学習を続けて頂く取り組みとなります。

これまでこの取り組みは、弊社社員が担当していましたが、受講生の増加もあり、毎日のやり取りにとっても時間がかかり、サービスを改善する業務に時間を使うことができないという課題がありました。

- PICK UP PROJECT-

――ご依頼の理由や決め手は？

お話をさせて頂き、ひとりひとりがとてもプロ意識をもたれていて、一緒にビジネスをしたい、仕事をしたいとすることができたからです。最初のオリエンテーションの場でも、積極的にPolarisの方から出来ること、得意な分野で、どういったら価値が発揮できるのか、よりよいやり方がないかと思いを巡らせ、意見をいただける場面がありました。本当に安心と信頼を持ってお願いできる方たちだと感じました。

――Polarisに依頼した際に期待していた成果は？

受講生が学習を諦めず、継続して続けるためのサポートです。

――依頼にあたって大変だったことや、苦労した点はありましたか？

現在、それは克服できているでしょうか？

苦労した点はありませんでした。

むしろ担当されている皆さまが課題に感じることや、疑問点を拾って、声を上げて頂けるのでとても助かっています。

当初、不安に感じていた点として、いままで社内で行っていた業務、かつプログラミングがわかるメンバーが担当していた点をお願いしたことで、どんな対応ができるのか、受講生に不満を感じさせてしまうのではと危惧していました。これはすぐに杞憂に終わりました。

皆さまが、我々が考えている以上に受講生のことを考え、そこに寄り添って、試行錯誤して取り組んで頂き、その結果、しっかりと受講生からのアンケートやお声からも、Polarisの方々の対応によって支えられたり、前にすすめることができた声が返ってきました。

本当に皆さまのメッセージのやり取りや、受講生からの声には、ぐっと来ました。

ありがとうございます。

――想定していなかったプラスの成果はありましたか？

上で書かせていただいたとおりです。

また、なかなか実現できておりませんが、弊社内での他の業務や取り組みがお願いできればと思っています。Polarisに参加されている方の取り組み方や、意識はとても素晴らしく感じており、今後もお仕事をお願いさせていただきたいと考えております。

Polaris担当ディレクターより

「プログラミングスクールのオンラインバディ業務」は、Polarisに集まる口コワーカーの特性を活かしたオンライン業務の新しい形となりました。オンラインでのテキストだけのコミュニケーションには、高いスキルが必要ですが、口コワーカー同士で相談し合うことで一定のクオリティを担保してきました。また、口コワーカー、インフラトップご担当者、Polarisコーディネーターの三者がチームとなって、受講生が意欲的に学習をすすめるために、チャットツールを活用した情報共有を大切にしてきたことで、相互の信頼関係を築けたのではないかと考えています。現状では、時間と場所にとらわれずに働く場合、一定のPCスキルを求められることが多いのですが、この業務では、PCスキルだけでなく、「寄り添うコミュニケーション」という子育ての経験がスキルとして生かされます。子育て経験がキャリアとなる新しい業務を確立できた意味合いはとても大きいと思っています。今後も、より多様な人へ「はたらく」機会を提供できる業務を作っていきたいと思っています。

- PICK UP PROJECT-

今期、新たにスタートした、2つの個性の異なる、コミュニティ運営事例を紹介します。

Polarisによるコミュニティ運営の特徴は「半仕上げ」です。

コミュニティ形成における私たちの役割は、私たちがすべてをつくりあげるのではなく、その場の人たちが関わる余地を残すことです。そうすることで、どの場においても均一のものではなく、個性のあるコミュニティになっていきます。

そして、サービス提供者と消費者ではない、関わる人たちが新しい関係性を紡ぎ合う、そんなコミュニティづくりを目指しています。



「Loco-café OOOI」



東京建物株式会社が、地域貢献事業の一環として、新築分譲マンション「Brillia品川南大井」の販売センターの1階を、地域の人々が利用できるコミュニティスペースとして開放しました。東京建物、Polarisともに初の試みで、他のマンションデベロッパーでも例のない取り組みです。

「Loco-café OOOI（オーイー）」は、「ひとと、くらしと、まちとつながる」「「おーいっ！」って声をかけられる場所」をコンセプトに、南大井周辺の住民同士、Loco-café OOOIに訪れた人、南大井で暮らす現在の住民と未来の住民が繋がる場を目指しています。繋がりや新しい出会いがあり、地域に開かれた場所という願いが込め、「愛着のある地元」を意味する「Loco」を名称に取り入れました。

日々の運営を担うのは、近隣に住む子育て中の地域女性たち。この地域に住む“普通”の女性がチームとなり、それぞれの得意を活かしながら愛着のある地元で暮らし、働いています。

★2019年度グッドデザイン・ベスト100 選出★

Loco-café OOOI スタッフの声

日々の業務では、多世代のいろいろな来場者の方に出会います。ふらっと来て下さる方も、礼拝の帰りだったり、お散歩途中だったり、夫婦別行動中だったり、様々で面白いですし、スペース利用の方々も、利用目的はさまざまです。活動的な皆さんに刺激を受ける毎日です。

また、来場者向けのイベント内容を考えたり、スタッフ同士で運営について意見を出し合って進めていくところも、楽しいです。

その他にも、私にとっては何気ない地域の情報が、それを欲している人にとっては重要な情報だったりするところも面白いなあと感じます。「結婚、出産、子育て、合間に仕事」のバタバタな12年の品川暮らしで得たものが、誰かの役に立つと思うと、なんだか嬉しいです。

- PICK UP PROJECT-

東京建物株式会社
住宅事業部 事業推進グループ主任 黒田敏 様

――Polarisを知ったきっかけと、解決したかった課題について教えてください

デザインを担当している乃村工藝社様からの紹介です。
企画が決まり、実際にどのようにしたら地域の人たちに気に入ってもらえるか悩んでいました。通常我々デベロッパーが企画しても、販促的な要素が強くなり、営業活動のように思われてしまうことが一般的です。その形では今回の地域活性化の形にはふさわしくないと考えており、本当の意味での地域に愛される空間・使いやすい空間が何かを知るのが大変でした。

――ご依頼の理由や決め手は？

お話を聞いた瞬間にすぐにお問い合わせしようと思いました（笑）
理由は単純で創業者の市川さんが嵐の大野サトシのファンで自分もサトシであり、運命を感じたからです。（冗談です）

本当の理由は、Polarisさんが、女性のキャリアパスの社会課題を解決するだけでなく、地域・コミュニティの軸を絡めて「はたらく」を活用しながら社会との接点を創出する仕組みを作っていたからです。そのお話を聞いたときにものすごい納得感と先進性を感じたからです。

ただ単に働く環境を準備するだけでなく、「はたらく」の中にコミュニティ要素を取り込むことにより仲間意識を芽生えさせ、業務の持続性を向上させたり、褒め合うことにより成果や成長を感じる環境を作り出しており、このような環境は我々サラリーマンにも求められている環境であり、素晴らしい仕組みだと感じました。また、地域（はたらく方にとって身近な場所）にその環境を創出するだけで、子育てなどの制限のある方々も柔軟に「はたらく」ことができるのも本当に素晴らしいと感じました。上記の環境を創出しているポラリスさんのビジョンに強く共感し、一緒にパートナーになっていただけないかと相談させていただきました。

OOOI周辺の地域の方々も、社会との接点をこの場を起点に創出し、新しく来るマンション住民の方々も巻き込んで運営してもらいたい！と心から思い、Polarisさんにお問い合わせしました！

――Polarisに依頼した際に期待していた成果は？

地域の人たちのほとんどがBrillia（OOOI）を大好きになってくれる！笑

――依頼にあたって大変だったことや、苦労した点がありましたか？
現在、それは克服できているでしょうか？

モデルルームを自社グループとは別の運営会社様をお願いするのは初めてであり、社内説明の際にマンション販売に寄与するのかと上司に聞かれた時が一番困りました。結果として、（OOOI終了にあたり）サンクスパーティーを実施した際に、契約者の方が多く来場された様子を拝見し、マンションを検討している方にも愛される施設に近づけたのかなと感じることができたことに加え、契約者の中には、カフェを知ってからマンションの存在に気づき、その後マンションを購入いただいたお話をお聞きし、販売に寄与したことをその時に強く実感することが出来ました！

――想定していなかったプラスの成果はありましたか？

OOOIから起業する方が誕生したことは、ポラリスさん無しには絶対実現しなかったと思いますし、狙っていたとは言え、グッドデザインベスト100を受賞できたのも想定していなかったプラスになります。本当にありがとうございました！！

- PICK UP PROJECT-



「MID POINT目黒不動前」



住宅立地型で「職住近接」をテーマとしたレンタルオフィス。リラックスしながら過ごせる交流の場としてラウンジを設置。Polarisは場の運営と入居者とのコミュニケーションをとる「コミュニティマネージャー」としての業務とコミュニティ形成企画に関わっています

コミュニティマネージャーの多くは近隣に住む女性たち。住宅立地にあり職住近接をテーマにした場のため、会話の中で、自然と近くの飲食店の話で盛り上がったり、地域情報がコミュニケーションをとりもつこともあります。目黒シティマラソンにもチームでエントリーするなど、暮らすとはたらくが混ざり合う、そんな関係性も生まれています。

MID POINT目黒不動前コミュニティマネージャーの声

自宅から近く、8Fラウンジ（コミュニティマネージャーがいる場）からの見晴らしががいいので、楽しく仕事をしています。ラウンジでは入居者さんが打合せをしたり、ランチをしたり、コーヒープレイクをしたりと、自由な使い方をしています。仕事の打ち合わせの横でパスタを作っている光景も日常です。私たちは、そんな皆さんが心地よく過ごせるように、挨拶や他愛もない会話をしながら、困っていることがないか、どんなことを考えているのかと、小さなほころびを見つけて課題にし、一つずつ解決していったります。

業務はシフト制なので、初めて担当する業務を引き継ぐこともあります。メッセージで問いかけると、対応できるチームメンバーが答えてくれるので、安心感があります。子どもの発熱など急に休まなければならないときも、「お互い様」の気持ちで、ほかの人が交代してくれるため、チームで仕事をしている一体感があると感じます。

MID POINTで過ごす時間が、仕事でありつつも、生活のリフレッシュタイムになっています。

株式会社コスモスイニシア

R&D部門 新規事業推進一課 チーフ 瀬戸健二 様

――Polarisを知ったきっかけと、解決したかった課題について教えてください

レンタルオフィスMID POINTは、弊社にとっても新しい取り組みです。運営を始めるにあたっては、シェアオフィスという「箱」だけを作って貸すといった事業ではない不動産+αのことを提案したいという思いがありました。住宅立地の場所にあるMID POINTは、普段自宅で1人で仕事をしている人が、安心して、かつ、刺激のあるような横のつながりのある場所をイメージしていたところ、デザインを担当頂いていた、乃村工芸社さまから「Polarisさんいいですよ」と、ご紹介いただきました。

- PICK UP PROJECT-

——ご依頼の理由や決め手は？

住宅立地でコミュニティを売りにしたいと思っていたのですが、自分たち自身、コミュニティに対するイメージが漠然としていました。Polarisさんが、実際コワーキングスペースの運営実績があり、運営しているco-ba Chofuのイベントに参加させていただいて、人と人との温かいつながりや、入居者さまとの関係性、場の作り方などを実際に体感し、弊社の考えていること、方向性が似ていることなどがわかり、お願いすることになりました。

——Polarisに依頼した際に期待していた成果は？

運営側がサービスを提供し、入居者さまがサービスを受けるという関係性ではなく、入居者さまの自主性をどうやって引き出すか、ということ、Polarisさん主導ですすめてくれていることは、他社にはない、期待以上の点だと思っています。

ある時、入居者さまが機器の使い方がわからないということがありました。その時に、近くにいる違う入居者さまが使い方を教えてくれた、そんなエピソードがあります。設備の不具合があったときにも、入居者さま同士のSNSグループで、自らアナウンスし、どこまで対処したかなどを自然と伝えあう関係性がうまれています。自分たちの場所をみんなで作っていく、そんな雰囲気になるように、そっとはたらきかけている点が素晴らしいと思っています。コミュニティマネージャーさんも、お子さん連れでイベントに参加してくれたり、MID POINT大塚のオープニングパーティーには、MID POINT目黒不動前の入居者さまが、距離もあるなか、手土産を持って参加してくれたり、など、みんながMID POINTを盛り上げたいと思ってくれているコミュニティを感じられることが嬉しいです。

——依頼にあたって大変だったことや、苦労した点はありましたか？ 現在、それは克服できているのでしょうか？

リノベーションした中古ビルの運営事業であるため、当初は備品や設備の不具合などの際に、事業主である弊社とPolarisさんの業務との棲み分けを探り探り進めており、その点の整備に苦労しました。今は、コミュニティマネージャーさんが思った以上に主体的に動いてくれるのと、弊社としては現場を見ながら、Polarisのディレクターさんともこまめにチャットツールを活用し、相談・共有しながら進められています。

——想定していなかったプラスの成果はありましたか？

本当に唯一無二の場が、第一号物件のMID POINT目黒不動前で出来ていると思っています。この経験が複数物件の運営にも活かされています。今のコミュニティには満足していますので、+α、入居者さまが何を求めているか、何を提供していけるか、この場に来ると起業相談ができる、学生が働くイメージを持つ場になる、など、いろいろアイディアが膨らみますし、この先の事業展開を考えることが楽しみにもなっています。弊社の想いに寄り添って運営してくださり、コミュニティマネージャーさんには、本当によくやってくださった！と感謝の気持ちでいっぱいです。

トピック - スペース事業 -

・ 場を起点に「はたらき方」でまちをファシリテート。“はたらき方でまちを面白く”

現在Polarisは、心地よく暮らすためのシェアワークスペース「Loco-working space cococi」、地域のフリーランスや事業者が集まる「co-ba Chofu」、日本でも数少ない常設のフェンシングスタジオなどが入る多目的スペース「cococi garden」といった3つの拠点を活用しながら、調布というまちを「はたらき方で面白く」していくことを目指しています。



Pick-up：普段のPolarisと違う人たちが集う独自の生態系

CO-ba

地域の女性を対象とする事業が多いPolarisにおいて、co-ba Chofuは男女関係なく地域の多様なプレイヤーが集まる場となっています。職住近接を求める人が多いこともあり、一般的なコワーキングスペースと比較しても、女性会員の比率や長期的な入居者の比率が高いのも特徴です。Polarisは、日常的なスペース運営の他、入会希望者の面談、交流イベントの企画、会員同士のつながりづくりなどを行っており、現在4名の女性がコミュニティマネージャーとして業務に従事しています。

林建設からの委託業務として一部運営を担っていた時と比較すると、Polarisがオーナーとなった2018年6月以降のほうが運営の自由度が高く、Polarisが提案する「地域に根差した、多様な人が集まるシゴト軸のコミュニティ」を体現する場となってきています。会員の唐品さんには「南大井を面白がる会」「藤里を面白がる会」に協力いただくなど、会員さんとのビジネスとしての連携も生まれています。また、視察も増え、co-ba Chofuイベントに参加して実際の様子を見てもらったおかげで事業イメージが具体化され、スペース運営業務の受託にもつながるケースも生まれました。（MID POINT目黒不動前など） co-ba chofuがあることで、Polarisの事業にも新たな意味や価値が生み出されています。

*co-baとは、『場の発明』を通じて欲しい未来をつくる」というミッションを掲げる株式会社ツクルバが展開するシェアードワークプレイスのブランドで、co-ba chofuは全国に広がる「co-ba NETWORK」の一拠点として運営しています。co-baは現在国内22か所にあり(2019年秋現在)、ツクルバやオーナーが参加するネットワークの交流も盛んです。



トピック - コーポレートデザイン事業部 -

概要

コーポレートデザイン事業部は、2019年1月の事業部再編に伴い、新たに創設しました。主にPolarisの目指すビジョンを体現するイベントの実施や、社内外の広報や研修を担当しています。今期は、広報の体制が強化され、2019年3月にWebサイトのリニューアル、ウェブサイト・SNSでの発信の強化、分析や解析を、運用に活かすなど、広報の基盤を整えた一年でした。今年度の広報周りの実績と、実施したイベントをご紹介します。

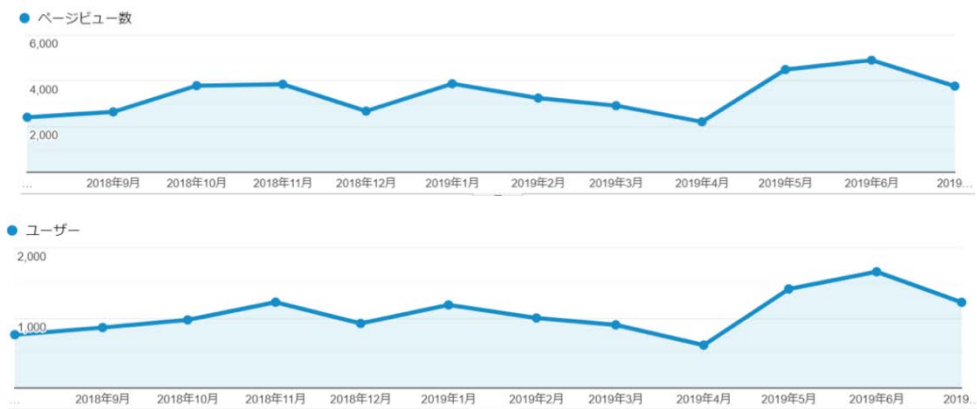
広報

Polaris Web

2019年3月31日にPolaris Webがリニューアル。広報チームの本格稼働に伴い、サイト全体のコンテンツが増え、ユーザーが求める情報を定期的に掲載することができるようになりました。その結果、ページビュー数・ユーザー数が増加。検索結果による表示回数と、クリック数（CTR）も2倍近くに増えました。



Polaris Web
<https://polaris-npc.com/>



SNS関連

イベントや、プロジェクトの内容に合わせて、Facebook、Twitter、Instagramなどを活用しています。特にSNSは体制が整い、ライティング・広告の活用・解析など、チームとして運用ができるようになりました。また内部にとどまらず、SNSチームが、秋田県藤里町でのプロジェクトで地域の女性たちと連携し、SNS発信のサポートも実施。

今後はライブ動画配信にもトライしていく予定です。

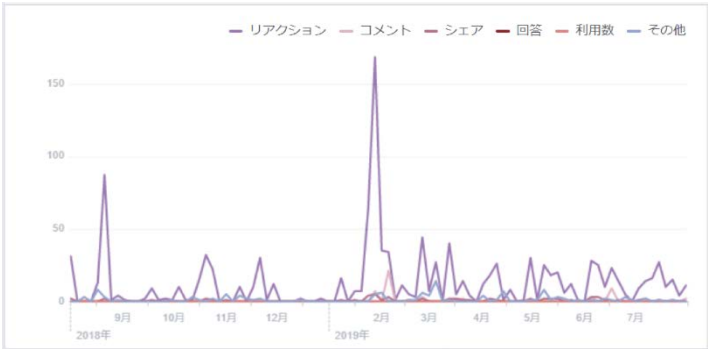
◆Polaris Facebook
<https://www.facebook.com/polaris.npc/>
フォロワー数：1813



◆はたらき方マルシェ Instagram
[@hatarakikatamarche](https://www.instagram.com/hatarakikatamarche)
フォロワー数：265



今期リアクションが最も多かったFacebook投稿
・(株)ウエダ本社×utena works(株)×Polarisプレスリリース
<https://www.facebook.com/polaris.npc/posts/2050446735044914>



◆Polaris広報Twitter
[@polaris_pr](https://twitter.com/polaris_pr)
フォロワー数：150



◆Polaris Peatix
<https://peatix.com/group/22730>
フォロワー数：802



Polaris通信

Polaris通信とは、PolarisでLoco-workerとしてはたらいっているメンバーに向けたWeb社内報。業務体験談、イベント報告、Polarisの事業全般についてなど、メンバーが「知りたい」情報を定期的に掲載しています。編集部は、現役のエディター・ライターを含むセタガヤ庶務部のメンバーで構成し、当事者ならではの声を大切にしています。

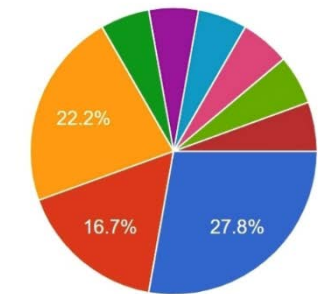
2018年8月～2019年7月に公開した記事は全48本。「暮らすとはたらく」と「業務体験記」が人気シリーズ。2019年4月には「数字で見るPolaris」の連載がスタートしました。上記シリーズに加え、イベント告知や開催レポート、寄稿記事なども増えました。2019年7月には3周年を迎え、はじめてPolaris通信についての読者・ライターアンケートを実施。多くのメンバーが記事の公開を楽しみにしていることの声が聞かれました。今後も社内報として、セタガヤ庶務部メンバーのリアルな声を届けていきます。



ランキング	ページタイトル
1	みんなの「暮らすとはたらく」を知りたい！～野澤恵美さんに聞きました
2	教えて！庶務部のお仕事のこと その①
3	Polaris運営役員が5人になりました!!
4	教えて！庶務部のお仕事のこと その②
5	『リアルを感じる！』一人気記事「暮らすとはたらく」シリーズをご紹介します！
6	みんなの「暮らすとはたらく」を知りたい！～Nさんに聞きました
7	教えて！庶務部のお仕事のこと 「Feliz アッセンブル業務」編 その③
8	座談会「Polarisと私」実施報告～「Polarisではたらく」とは？そして、8月20日の7周年イベントに向けて～
9	初めての子連れ出張！～秋田県藤里町へ行ってきました～
10	交流会に参加しませんか？『～現場メンバーに聞いてみよう！～ココが知りたい！セタ庶のおしごと。』10月26日開催です！

Polaris通信3周年記念 読者・ライターアンケートより（一部抜粋）

Polaris通信を読む頻度を教えてください。



- 週1回
- 2～3週間に1回
- 月に1回
- facebookで更新通知が来たとき
- 発行されたら必ず見ます！
- 気付いたときに🎵
- 頻度として意識していませんでした。UPされたら読む感じです。
- 記事がアップされるタイミングで
- Facebookに上がってきたとき

・ イベント

◆創業記念イベント



「変化の時代における安心のかたち」（昼の部）
～個人と組織の関係性～

詳細はこちら：

<https://polaris-npc.com/event/anniversaryevent/>

2011年8月20日のcococi立ち上げと共にスタートしたPolarisは、2012年以降記念日の月に創業記念イベントを開催しています。7周年では、「描いた未来を、どう創ろう」をテーマに、昼の部・夜の部の2部構成で実施しました。



「ビジネスにおける、対等ってなんですか？」（夜の部）
～多様性の時代における愛と憎しみ～

◆Tokyo Work Design Week



Tokyo Work Design Week 2018
面倒な問題から逃げるのはもうやめよう

毎年Polarisがプログラムオーナーとして参加している、Tokyo Work Design Week。2018年は立教大学大学院特任教授の梅本龍夫先生をお招きし、「面倒な問題から逃げるのはもうやめよう」というテーマで、対話を重ねました。

詳細はこちら：

<https://polaris-npc.com/event/twdw/>

◆はたらき方マルシェ



～お金を循環させて稼ぐ調布をつくろう～
「はたらき方マルシェ@調布」 Vol.6



～そろそろ その旗あげてみない？～
「はたらき方マルシェ@調布」 Vol.7

地域の多様な「はたらき方に出会う」イベントとして、年に2回開催しているはたらき方マルシェ。ゲストをお迎えしてのトークセッションや、出展ブース・ワークショップを企画運営しています。

詳細はこちら：

<https://polaris-npc.com/event/marche/>

トピック
- 自由七科 -

自由七科ラボ（リベラルアーツ・ラボ）は、今年の1月にPolaris内に立ち上がった研究所（ラボ）です。

初年度の2018年のテーマは、「Polaris的幸福な組織」

※Appreciativeは「真価がわかる」「価値を認める」、Inquiryは「探求」「質問」などの意味。「AI」一ア
プリシエイティブ・インクワイアリー（Appreciative Inquiry）は、ポジティブな問題解決・組織開発手法。

- ・ 誰かの幸福が別の誰かの我慢や犠牲の上に成り立つものでなく、
また、多くの人の あきらめや妥協の産物とならないようにするためにどうしたらいい?
- ・ 違うことそのものは問題ではなく、推進力となる可能性があるということを理解する ために
何ができる?
- ・ Polarisという組織と自分の接点を確認し、義務や努力ではなく、喜びや楽しみで つながるために
どうしたらいい?



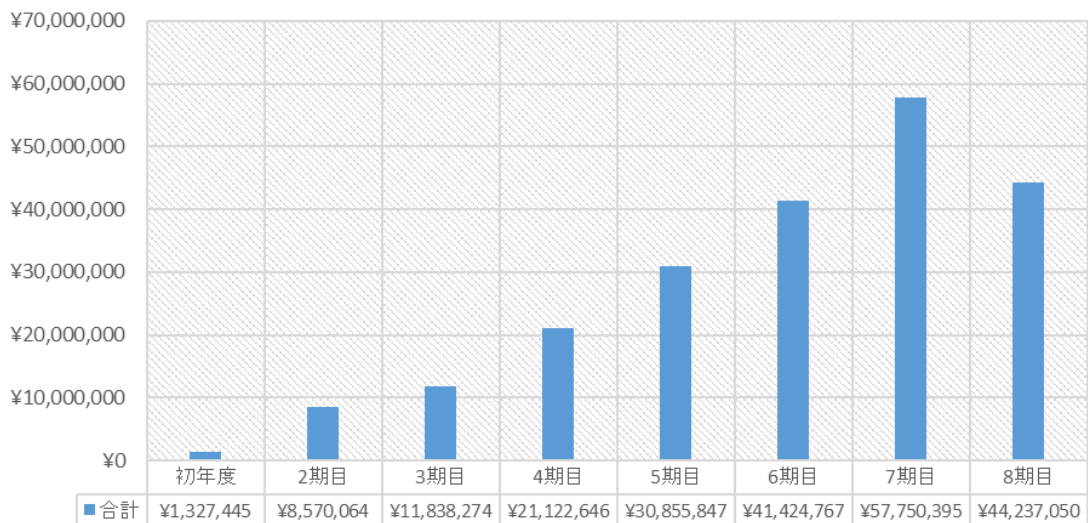
ファイナンシャルレポート

【概要】

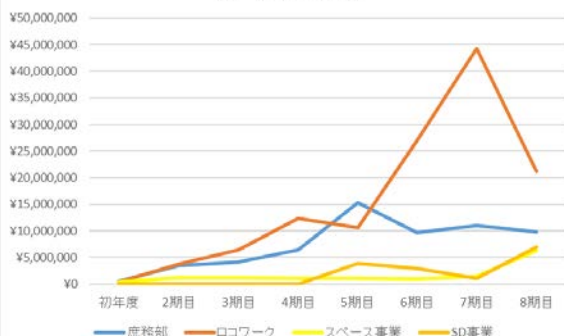
社会課題に向き合う事業者であるPolarisは、私たちが望む未来を形にしていくためのミッションや社会的なインパクトが重要ですが、組織を持続的に動かし、関わる人たちの納得や幸せのためには、経済的なリターンも重要です。売り上げベースで見ると、創業以来右肩上がりとなっていたPolarisですが、8期目である今期は前年比76.6%と、初めての売上減少となりました。

部門別売上比較など細かく数字を見ていくと、事業の成長を大きく後押ししていた「ロコワーク事業」が大幅に減少したことが最大の要因となっていますが、事業部門別売上構成比をみるとバランスが改善されつつあることが分かります。また、スペース事業は前年比430.3%、研修や調査・コンサルティング、ノウハウ移転などに取り組むソーシャルデザイン事業（SD事業）は前年比661.5%で、それぞれ全体の売上比率15%程度まで成長しました。1部門に依存する利益構造のリスクに備え、組織としての体力があるうちに人材育成や新規事業開発などに備えてきたおかげで、売り上げは大幅減となったものの、前々年比は106.8%の微増で食い止め、新しい事業構成へシフトできたといえます。目の前のことに一生懸命になるだけでなく、先を見据えた投資の重要さや、危機を共に乗り越えようとしてくれる仲間への感謝を大きく感じた1年となりました。

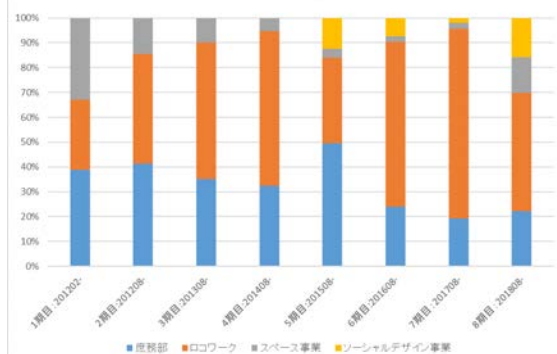
年度ごと売上総合計比較



部門別売上比較



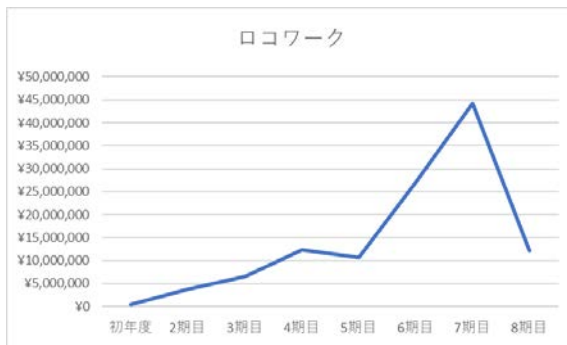
事業部門別売上構成比率



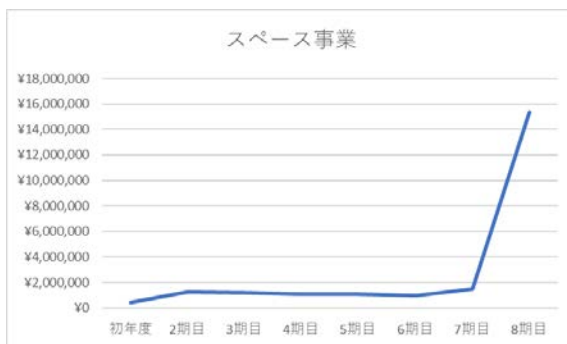
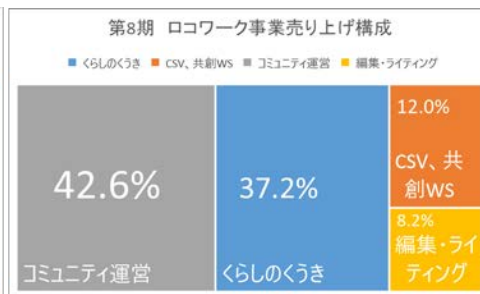
- 部門別考察 -



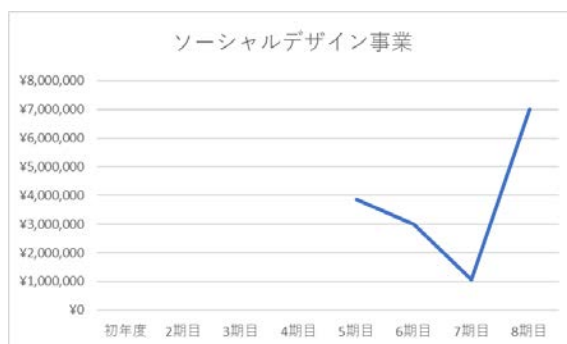
過去最大の売上だった5期目と比較すると63.9%、前年比88.3%となっています。6期目の減少から回復しきないまま直近3期はおおむね横ばいとなっていますが、これは、いわゆる「継続案件」とよばれる事務局業務等が終了したことなどが影響しています。終了の背景には、社員を雇用するまでに事業者さんが成長されたことや、業務委託メンバーが直接雇用になり切り替わったなど嬉しい理由もありましたが、継続案件は組織安定的な利益につながり、また、チーム運営というセタガや庶務部の価値をより実感できるので、丁寧な提案やサービス開発に努めており、今年度からは「オンラインパディ」や訪問看護ステーション支援のバックオフィス業務など新たな案件がスタートしました。



地域情報提供サービス「くらしのくうき」や、地域×企業による商品開発（CSV：Creating Shared Value）などのサービス群です。地域との共創の象徴的なサービスとしてリクルートコミュニケーションズ社と共同開発した「マチアイ」を中心に大きく成長しましたが、「マチアイ」の縮小・サービス終了（2019年6月）を受け前年比47.8%という大幅減となりました。ですが、売上構成比（下図）へ目を向けると、単一サービス、1社偏重のリスクに備えて行ってきた新規事業開発が形となりつつあり、健全な形へシフトしてきていることが分かります。また、地域からの価値創造の大きな可能性を示してくれた「マチアイ」を首都圏・関西圏で30件以上導入した経験をもとに、販売支援に加え入居後のコミュニティ形成や場の運営などを含めた統合的なサービスとして提案を行い、少しずつ成果が見え始めている段階です。



今期は前年比430.3%という大幅増加となりました。これは、林建設よりco-ba chofuの事業譲渡を受けたことと、その波及的な効果が要因となっています。2016年11月1日より、委託事業として「co-ba chofu」の運営を行っていましたが、2019年6月より事業譲渡を受けオーナー企業となりました。co-ba chofuの会員は職住近接を希望するフリーランサーや事業者であり、女性に限定されたものではありません。多様な会員と緩やかにつながったことで刺激をもらえたり、当たらな連携が可能となりました。また、オーナーとして主体的に事業を展開できたことは、Loco-café OOOIやMID POINTなどの場を中心としたコミュニティ運営の受託につながり、これらの事業はロコワーク事業の次の柱として育ちつつあります。



前年比661.5%と大幅な増加となりました。これは、秋田県藤里町における地域密着型ワークシェア推進のための事前調査やノウハウ移転の受託が大きく、部門別構成比87.1%となっています。

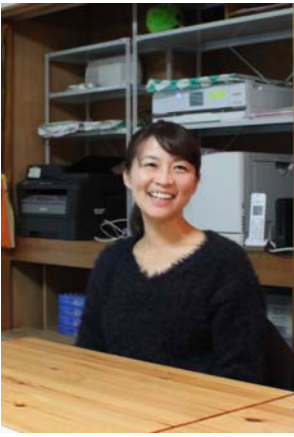


他地域への研修やセミナーなどの開催は例年行っていましたが、事前調査から提案、継続的な受託契約によるノウハウ移転は初めての案件となり、今後の提案の参考となる事例です。

インタビュー



代表であり、CCO（チーフ・コミュニティ・オフィサー）として現場に根ざす大槻昌美と、DEO（デザイン・エグゼクティブ・オフィサー）として、組織の流れをデザインする野澤恵美、創業者でCSO（チーフ・ストーリー・オフィサー）市川望美の3人で、Polarisの2018年度（第8期）を振り返ります



人の変化～Polarisを知りたいから、仕事を楽しみたいへ～

Q. Polarisの期首は8月。夏休み中の8月に、経営に携わるコアメンバーと、毎年子連れ合宿を実施しています。普段、対面ではなかなかまとまった時間を取りづらいPolarisのメンバーが、丸2日時間をかけて取り組む経営合宿。今年の合宿はどんなテーマでしたか？

昌美：子連れの夏合宿は、常に危機感を伝えてます（笑）都度都度、その年前後に感じる危機感。今年は、組織・事業がなんとなく分断されている感じがして…。Polarisでは、トップダウンの組織ではなく、フォロワーシップ経営を掲げていますが、なんとなく縦割りの組織の雰囲気を感じ始めていたんです。

恵美：Polarisの事業、地域情報提供サービス（くらしのくうき）で、メンバー同士の業務が緩やかに連携していて、いいチームになっていたんです。それぞれの業務をふんわりと把握し、お互いフォローしあいながら進行していく。イソギンチャクがちょっと足を伸ばすように、それぞれの領域に少し踏み込むようなチーム運営。それが、他の業務や事業でもできないかな、と感じていて、縦割りではなく、Polarisは横断型の組織ということを再確認する、というのが夏合宿でのテーマでしたね。

望美：前年に、この地域情報提供サービスが、大手代理店との協働で関東圏に加え、関西への展開と事業が大きく拡大していききました。Polarisとしても事業の次のステップを迎える時期でもあり、整えるべきところ、危機管理や個人情報など、スピード感をもってすすめたところ、一気に整った部分と、逆に必要な柔軟性がなくなってしまうのではと危惧したり…。「きちんと」「ちゃんと」と、「柔軟」の狭間で、組織が揺らいだ感じでした。

とはいえ、この機会に着手し整えたことは、2年後とかに役にたったり、過去の経験からも、そう思っています。

昌美：確かに、中途半端に「このくらいで…」ではなく、いきつくところまで、やりきったので、いろいろ整備できた点と、やっぱり柔軟であることの大事さを改めて再確認したというか。組織は揺らいだけど、いい節目となりメンバーの雰囲気も変わってきたのも実感しますね。



恵美：2年から3年で、組織の施策を入れ替える、大体そんな流れになってきていてこの年はテコ入れの時期。でも強い種が残っている気がするというか...（笑）メンバーが段々とフリーランスっぽくなってきている気がします。

Polarisの事業の現場が増えてきて、メンバーがそれぞれ事業を背負い、いろんな人と関わり、自分で判断することが必然的に多くなってきました。多様な人がいる現場って、もちろん大変なんだけど、私はそこそが、Polarisの醍醐味と思っていて。苦いけど美味しいカニ味噌みたいなものです。

望美：「庶務部」と「地域情報提供サービス（くらしのくうき）」の2本柱の事業構成のから、コミュニティ運営の「OOOI」や「MID POINT」、秋田藤里町との協働プロジェクトなど、事業構成が変わってきたことも、メンバーの雰囲気が変わってきていることにもつながってる。現場の量と種類も増え、「大変だけど、面白い」そんな声が多くなってきたよね。

昌美：地域情報提供サービス（くらしのくうき）」が、大手代理店との協働がこの年に終了になったことも、正直結構大きなインパクトでした。売上の的にもヒリヒリする状態になったのですが、逆に勢いがついたというか。今まで、なんとなく手を出しちゃいけない、みたいな雰囲気がどこかにあった気がする。けれど、いい意味でどんどん手を出してくれるようになってきたんですよ。数字が下がってからのほうが、楽しい！数字をあげていくことに燃えるメンバーもいてくれたりして（笑）

望美：リスクテイクを一緒にしてくれる人たち、ってことだよな、と思っています。誰かがボタンを押してくれたらやる、それを待ってるではなく、リスクがあることを含みつつ、みんながボタン押したがる、この事業進めていいですか？ボタン押していいですか？みたいな感じで。

恵美：場と仕事と権限とを渡して任せる、そんな業務の種類も現場も増えたことで、心強いメンバーが増えたなって思います。現場のチカラは大きいな。

事業の変化

～請け負うから多様な事業者との協働へ

Q.メンバーの変化の話題でも語られましたが、この年は事業構成が変わってきたようですね？

望美：ソーシャルデザイン事業は、かつてないほど忙しかったというか（笑）秋田県藤里町との協働プロジェクトでは、改めて理念に立ち戻った現場だったと思います。

昌美：新しい案件が多数始まりましたね。コミュニティ運営を2ヶ所受託し（OOOI、MID POINT）、KILTAともイベントを実施、調布の商業施設クロスガーデンでも地域女性によるワークショップ企画がスタートしたりと。

恵美：先程も話したように、「庶務部」と「地域情報提供サービス（くらしのくうき）」の2本柱、大手代理店1社のみ、から事業が多様になったことは大きいと思いますね。前年度の大手代理店との協働も大きな経験で、すごく引き上げてもらったなと感謝していますし、この経験で、Polarisとしての人材育成のパターンを得られました。この事業ベースで人材育成ができていたので、この多様な事業展開を受け止められたと思っています。

また、請け負う案件だった前年度から、多様な事業者と、継続的な案件一緒にどう作っていくか、そんなところからスタートしましたし、手の組み方も変わってきたなと思います。

望美：新規事業で、新しい価値を作っていく、そういうプロセスから、Polarisが関わっていくことができたのが、大きな変化だと思っています。Polarisの価値を使おうから、事業のコアな部分に組み込もうと、そんな風に、みなさんと協働をすすめていけたことを実感しますね。



Q.いよいよ9期目がスタートします。9期目に向けての意気込みを聞かせてください。

昌美：年月を重ねてきて、Polarisとしての仕組みがどんどん形づくられてきたことを実感しています。個人だけの努力でなく、「仕組みで解決する」ということ。創業以来語り続けていることですが、最近本当にしっくりきます。Polarisという仕組みがあることで、関われる人が増えるなということを、日々実感しているところです。もっと多くの人に届けたいし、多様な働き方を紹介する、民間のハローワークのような、そんなことをやりたいな！

望美：やっと現場が与えられたという気持ちがすごくありますね。今までPolarisが妄想してた...のではなく、社会が、それを本当に必要だと思ってくれて、機会が与えられ始めたという感じがしています。ただ、もっと広げていくために、休眠預金や、社会的な投資などで流れを強めていきたい、次の目標はそこですね。

恵美：Polarisに集まる人たちの文脈も変わってきていて、専業主婦が、ではなく、本業を持ちつつの人も、なにか違う可能性をという流れが生まれてきている、制約のある人へ仕事だけ...の話ではないということを思っています。みんなが何を求めて、ここに来ているか...ようやく、Polarisの暮らすとはたらく、業務だけでなく、学びの要素が認められはじめているんじゃないだろうかと感じています。

機運も上がっているのを感じているし、次年度はもっと忙しくなると思います。みんな、体調を整えていきましょう（笑）



未来に向けて

2018年度は、今までの延長線上には未来はないよ、いままでのやり方を見直さないところから先は進めないよ、と言われような1年だったように思えます。分かりやすい右肩上がり伸びてきた売上が初めて減少し、Polarisの利益を支えていたサービスの提供が終了したり、既存路線からの脱却、そして本気を試された1年でした。

ですが、おかげではっきりしてきたこと、グッと成長できたこともあります。2017年度一気に拡大した口コワーク事業の業務量ともたらされた利益のおかげで、Polarisという組織の経験値が増えましたし、ハンドリングする中核的な人材の育成にも業務を通して実践的に行うことができました。また、集中的な利益のおかげで、そのほかの部分の「仕込み」をすることもできていました。co-baなどのスペース運営やコミュニティ運営の事業、ソーシャルデザインの地方との連携モデルなどは、前年度からの準備のおかげで2018年度形になりつつあります。

様々な企業や団体とのパートナーシップ構築や新規事業立ち上げに取り組めたのも、2016年、2017年から備えてきたことの成果です。とても良い出会いに恵まれました。つないでくださった皆さまには本当に感謝しています。

まだ決して楽観視できない状況ではありますが、危機を脱出できたとは言えないのですが、そんな中にあってもPolarisと一緒にこの波を越えていこう、次のステージを目指そうとコミットしてくれる仲間との絆は確実に深まっていますし、まだお知らせできてる段階ではないけれど、新しい動きも出てきています。

2019年度のPolarisもどうぞよろしくお願いいたします。

ソーシャルデザイン事業統括 取締役ファウンダー 市川望美

沿革

- 2010.12** 内閣府地域社会雇用創造事業ビジネスプランコンペで支援案件として採択
- 2011.8** 地域における多様なはたらきかたの拠点として、民家を活用したワークスペース“cococi”立ち上げ
(東京都調布市仙川町)
- 2012.2** 非営利型株式会社Polaris設立
- 2012.8** 「セタガヤ庶務部」本格始動、説明会スタート
- 2012.10** 暮らしを価値に変換する「ロコワーキング事業」開始
- 2013.1** “暮らす”と“はたらく”が愛着のある場所で繋がるはたらき方を広げるため、ロコワーキング協議会立ち上げ
(2015.3.15NPO法人化)
- 2013.3** 東京都インキュベーションHUB推進事業受託（創業支援センターTAMA）（事業名「自分らしいはたらき方をデザインするための起業塾」）
- 2013.9** 林建設（株）との共同事業として、賃貸マンションの空き部屋を活用した Loco-working Space “cococi” @ 国領立ち上げ（2018.5クローズ）
- 2014.8-** 東京都インキュベーションHUB推進事業受託（創業支援センターTAMA）（事業名「ロコ（地域）・イノベーター養成塾」）
- 2014.8-12** 文京区ソーシャル・イノベーションプラットフォーム事業で採択され、「ブンキョー庶務部」立ち上げプロジェクト開始
- 2014.9-** 東京都インキュベーションHUB推進事業受託（創業支援センターTAMA）（事業名「おうちから起業」）
- 2014.10** 西武信用金庫ソーシャルビジネス成長応援融資「CHANGE」で採択
- 2015.3** 地域女性による不動産販売時の情報提供サービス「くらしのくうき」開始
- 2015.3** 地域に根差し活動する事業者と共同出資で合同会社Loco共感編集部設立
- 2015.11** 取締役交代(山本弥和から野澤恵美へ) 山本は出資者として残りながら、主業務をLoco共感編集部へ変更
- 2016.9** (株)リクルートコミュニケーションズ、(株)リクルート住まいカンパニーと共同開発した地域情報提供サービス「マチアイ」グッドデザイン賞受賞
- 2016.10** 代表取締役交代（市川望美から大槻昌美へ）、フォロワーシップ経営へ移行
- 2016.11** 林建設（株）からの委託事業として、「co-ba chofu」運営業務開始
- 2017.3** 地域情報提供サービス「マチアイ」、グリーン・オーシャン大賞2017銀賞受賞（リクルートコミュニケーションズが表彰企業）
- 2018.6** 林建設（株）より「co-ba chofu」事業移管、Polarisがオーナー企業となる
- 2019.1** 取締役として野村香奈、山本弥和が就任、5人によるチーム経営へ体制変更
「自由七科」（リベラルアーツ・ラボ）設置
- 2019.4** 秋田県藤里町における地域密着型ワークシェア事業
『藤里版しごとづくり・働き方推進プロジェクト』スタート



非営利型株式会社Polaris

設立：2012.2.27

所在地：東京都調布市仙川町1-16-4 栗本ビル3F

代表取締役：大槻 昌美

URL：<http://polaris-npc.com/>

発行日：2020.2.27

制作：非営利型株式会社Polaris

本誌のデータは非営利型株式会社Polaris第8期（2018.8.1-2019.7.31）の統計に基づき記載